

今回は、2007年度インカレロング及びミドル選手権クラス優勝の副賞としてオーリンゲンアカデミー参加支援のお話を頂きました。オーリンゲンには参加したことがなかったのと、ちょうど世界学生選手権に合わせて海外遠征が出来るということで、世界の様々なオリエンテーリングを見てみたい、と思い喜んで参加させて頂く運びとなりました。

・ 日程

ここでは、この夏の私の海外遠征の日程ということで、アカデミー参加後の日程も載せておきます。東北大学の日下もオーリンゲンアカデミー及びユニバーシアードに参加していたのでほぼ同じ日程で動いていました。

7月15日	日本出国
7月16日～7月23日	オーリンゲンアカデミー
7月24日	エストニアに移動
7月25日～7月28日	ユニバートレーニングキャンプ (Polva)
7月29日～8月2日	ユニバー (Tartu)
8月3日～8月5日	観光 (Tallinn)
8月6日	エストニア出国
8月7日	帰国

・ Salen に入るまで

スウェーデン国内に入ってからからは皆川さんと合流して現地に入ろうと話していたので、出国前に皆川さんとよく情報交換していました。航空券の情報や、現地の気候は寒いから準備が必要…などなど。原油価格上昇、ユーロ高の影響があって、ヨーロッパへの旅行というのは非常に厳しい時期でした。特に航空機の燃料サーチャージの関係で、月をまたいだら1万円近くも金額が上がる、という状況になったりして、いつもより早めの手配が必要になりました。

初めは初日の夜にスウェーデンに入ってどこかに泊まって翌日現地に移動する予定でしたが、皆川さんと相談した結果空港野宿することになりました。現地が思ったより寒く、朝方は寒さとまぶしさですぐに目が覚めました。

ストックホルムから集合場所の Mora の駅までは直通の電車でした。電車の切符はカードでしか買えないのですが私はクレジットカードを持っておらず、皆川さんに買ってもらいました。割とカード払いの場面がこの後も多くなったので、絶対カードは持っていくべきですね。問題なく Mora に入り、きちんとアカデミーのグループに合流することが出来ました。

・ アカデミーの仲間

参加者は全部で30人ほど、10歳くらいの子供からコーチや先生をしているという年齢の方まで本当に様々な人が参加していました。国もカナダやアメリカ、ブラジル、イスラエル、トルコ、パナマ、ベネズエラ、オーストラリア、アイルランド、チリと、普段見ないような国の方も多く、本当に世界各地からやってきていました。

アカデミーの運営は現地のクラブに委託されているようで、OKTiSalenの皆さんにお世話をしていただいていたいました。オーリンゲンの本大会の時にも、このクラブチームの陣地に荷物を置かせてもらったり、クラブの人と反省したりさせてもらいました。

アカデミーの皆さんは気さくな人ばかりで、食事中や朝の待ち時間などたくさん話しかけてくださいました。その中で、お互いの国ではどのようにオリエンテーリングに関わっているかや、どんな活動をしているかなど、たくさん情報を交換しあいました。終わったあともその繋がりには残っていて、写真を公開してくれたり、お互いの国に行くときには連絡を取って大会に参加してみたりということがあります。つい先日もオーストラリアから来た方が兵庫の大会に参加してくれました。

コミュニケーションはすべて英語なので大変ですが、皆親切にゆっくり話してくれたり、母国語が同じく英語でない人もいたりするので、それほど臆することなく話すことが出来ました。私は特にイスラエルの女の子二人（同年代の子と10歳くらいの子）と仲良くなり、毎日のようにお喋りをしたりレースの反省をしたりして楽しみました。

・ アカデミー中の生活

アカデミー中は国ごとにコテージで暮らし、朝ご飯は自炊、昼・夜ご飯はレストランでいただいていたいました。日本からは皆川さん、東大の田中、十文字大の高野、東北大の日下君が参加していたので5人で相部屋生活でした。食事内容はじゃがいもや肉、魚にソースをかけたものとパンやサラダといった典型的なヨーロッパの食事といった感じでした。すぐ近くにスーパーがあったので、そこで買出しをして朝ごはんは皆で作って食べていました。パスタやスープなど、手軽なものしか作れませんがそこそこの出来栄でした。

現地は山岳地帯で、そんなに天気が良くなかったのもあってとても寒かったです。雨が降る日には気温は10℃くらいまで下がり、毎日猛暑日の日本からは考えられない寒さでした。おかげで半袖のウェアでは寒く、すぐに上着を現地調達しました。

・ アカデミーの講義

アカデミーでは講義がとても充実していました。講義はもちろん全て英語、聞き取るだけでも大変でPptの映像と照らしてなんとか理解していました。話題としては「オリエンテーリングの教え方」、「GPSについて」、「大きな大会の開き方」、「世界のオリエンテーリング」、「大会に向けた準備の仕方」など。クラブチームのコーチが話してくれたり、はたまた外国のオリエンテーリング協会の人やナショナルチームの人が話してくれたりと本当に

様々な人が講師になってくれていました。講義の雰囲気は和やかで、皆積極的に質問したり議論したりしていました。

講義に合わせて、グループごとにワークショップもしました。これは応募段階から希望を取っていたのですが、3グループに分かれて実際に大会などを運営してみようという試みでした。私は、School children 向けにオリエンテーリングに触れてもらう、というような内容のイベントをしました。オリエンテーリングに見立てた正置しながらマスすすむゲームなど、子供にもわかりやすく楽しい工夫がいっぱい詰まったゲームを行い、近所のたくさんの子供たちが参加してくれました。

- ・ アカデミーでのトレーニング

もちろんトレインに入ってからトレーニングもありました。マイクロバスに分乗してトレインに行き、皆でウォーミングアップをして各自に合ったコースを回る、という形でした。ウォーミングアップはSIを使ったゲームのようなものが多く、日本ではやったことのない楽しい企画がたくさんありました。日本でも、合宿などでこのようなウォーミングアップが出来れば楽しいだろうと思いました。

あまり競技色は濃くなくて、楽しんでオリエンテーリングをしようという雰囲気でした。コースもレベルに合わせて4コースくらいあって、終わった後は皆でわいわい反省をしたり、コーチが読み歩いてくれたりしました。

トレインは起伏の少ないとても綺麗な森のトレインや、スキー場のような一面にオープンな斜面が広がるトレインなど、様々でした。

- ・ その他の活動

オリエンテーリング以外にも、近くの牧場に見学に行ったり、Moose（トナカイの仲間）の放し飼いされている山に見学に行ったり、オーリンゲンに併設されていたWCを観戦したりといった活動がありました。その活動の時にはお互いいろいろ話したりできて、仲良くなることができました。

- ・ オーリンゲン

大会自体はその後の遠征のためDay 1～Day 3の3日間だけ参加しました。上述の通りオーリンゲンに参加するのは初めてだったのですが、参加者の多さに本当に驚きました。朝早くから昼過ぎまでゴールしてくる人が絶えないというのは本当にすごいです。

私は1日目のレースには本当に苦戦しました。スウェーデンらしい湿地のあるトレインで、長時間さまよっていました。2日目、3日目になると慣れてきて、リズムよく回れたりするととても気持ちよかったです。起伏が少ないトレインで走るの、本当に自分でラインを作って走っている、という実感があってとても楽しかったです。

・ まとめ

オーリングアカデミーはもっとバリバリ鍛えてオリエンさせられるようなイベントかと思っていましたが、実際にはそんなことはなく、本当に楽しむことが出来ました。何より皆さん「本当にオリエンテーリングが好き！」という気持ちで溢れていて、「うちの国でももっとオリエンテーリング普及させたい！」という熱い思いを持っておられる方ばかりで、その中でオリエンテーリングをしていると本当に楽しかったです。

実際に世界のいろいろな国・立場の人と喋ってみると、こんな企画も出来るのか、とか、こんなふうに海外では考えるのだなあ、と学ぶこともたくさんありました。きっと向こうも同じでしょう。「オリエンテーリング」という共通語があることによって、アカデミーの参加者は昔から仲間だったかのように一緒に楽しく活動できていました。このような機会は素晴らしいな、経験して良かった、と本当に思いました。

ひとつエピソードを紹介しましょう。私がレースでミスをして落ち込んでいたら、初めのほうで話した10歳くらいの女の子に、残念だったね、でもレースは楽しかったの？と聞かれました。私が、それはもちろん楽しかったけどね、と答えるど**It's the most important thing.**”と言ってくれました。そう、オリエンテーリング楽しむことってとても大事なな、とこの遠征を通じて本当に思いました。日本の皆さんにも、そう、もっとたくさんの皆さんにオリエンテーリングを楽しんで貰いたい、そう思いました。

できるだけ多くの人に、海外でのオリエンテーリングなど、たくさんの経験をしてもらいたいと思っています。視野が広がれば、オリエンテーリングはどんどん楽しくなります。私は、そのような経験が出来て幸せでした。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださったリテラメッド様、手配などして下さった高橋善徳様には心よりお礼申し上げます。